

# 教育

一般社団法人 現代教育研究協会

会 報

51

題字 榎本頼兼氏

平成 8 年～平成 20 年 京都市長

発行所

一般社団法人 現代教育研究協会

〒600-8216

京都市下京区不明門通七条下ル

東塩小路町 709

TEL 075-371-5081

印刷所 株式会社 洛陽

## 子どもの夢を育む

会長 梶村 健二

### 1. 日頃の御礼



日頃は当協会の様々な活動にご理解、ご協力いただきありがとうございます。平成一

二十七年度も、多彩な講師をお呼びしての四回の講演会、日帰り研修、春の一泊研修と事業を実施いたしました。多くの方々に参加いただき、参加者からは良い学びの機会だったとお声をいただいています。各事業の詳細は、本会報に載せていますのでご覧ください。

### 2. 子どもの夢

先日ある小学校を訪れる機会がありました。体育館で、全校児童の作品展示が行われていました。六年生の作品は、「十二年後のわたしー将来の自分を想像し様子のわかるようにつくりましたー」というテーマで粘土を色付けた作品でした。多くの児童が、サッカー選手や野球選手、作家やイラストレーター、宇宙飛行士やIT技術者、気象予報士、医者や看護師、ケーキ屋さん、大工さんや自動車整備士、美容師など具体的な職業についている自分をイメージした作品を作っていました。おそらく事前にこんな仕事に就きたいという学習をして多くの夢を膨ら



を表現したものでした。就きたい職業について学ぶとき、自分の周りの大人を見ることから始まり新聞やテレビでの情報からの学びなど、どのような仕事、職業があるのかを幅広く学び自分の適性や興味、関心と結びつけて考えていくことになるでしょう。勿論どのような仕事も社会にとっては大事なもののばかりではありません。でも前述の「アルバイト」という形で自分の将来を考えている子どもの姿というのは少し厳しい周囲の環境の反映なのかなと考えさせられました。以前はフリーターという言葉がもてはやされ、会社という組織にとらわれず自由な自分を生きていくようなイメージで語られたことがありました。今こうした雇用形態は非正規雇用という形で正規雇用に比べて厳しい待遇にある現実が出てきています。

最近、子どもの貧困が社会的に大きな課題となっています。厚生労働省がまとめた国民生活基礎調査では、平均的な所得の半分を下回る世帯で暮らす十八歳未満の子どもの割合を示す「子どもの貧困率」が、二〇一二年に一六・三％と過去最悪を更新したことが分かったようで、高い子どもの貧困率ということが指摘されています。また、経済協力開発機構（OECD）がまとめた二〇一二年の加盟各国の国内総生産（GDP）に占める学校などの教育機関への公的支出の割合を見ると、日本は

三・五％で比較可能な三十二か国中、スロバキアと並び最下位だったそうです。OECDの平均は四・七％、一位はノルウェーの六・五％でした。日本は六年連続最下位であり、国によって教育制度や教育に対する国民の考えも異なるので数字だけでは一概には言えませんが、低い実態が浮き彫りになったということです。また、国際NGO「オックスファム」によると、二〇一五年に世界で最も富裕な六十二人の資産の合計が、世界の人口の内、経済的に恵まれない下から半分（約三十六億人）の資産の合計とほぼ同じだったということです。経済格差が世界的に拡大しているということも言われています。

貧困は親から子へと連鎖しがちでこうした貧困の連鎖をなくするために、多角的な施策の展開とより一層学校教育の充実を図り、すべての子どもがしっかりと力をつけ、夢をもって社会に出て活躍できるようにしていくことが求められているのではないのでしょうか。

### 3. 「協会の将来の在り方検討委員会」の提言

現代教育研究協会は約四十六年にわたり多くの会員を擁し、学校教育及び生涯学習の分野での研究、研修に大きな実績を残してきました。近年会員数が減少傾向にありまたその高齢化の進む中で、従来のような活動がこれからも継続して行っていくことが可能な

か、さらにその役割を今後も果たしていけるのかなどの大きな課題に直面しています。このたび協会の将来の在り方について検討委員会で検討を行い提言としてまとめ、先日の理事会で承認いただきましたので、その概要をお伝えします。

### 検討経過

平成二十七年七月 理事会で「現代教育研究協会 将来の在り方検討委員会」の設置と委員として、牛尾、梶村、北波、福西、福野の五人の理事を選任。

同七月から十二月 四回の検討委員会を開催し、検討協議を行い提言としてまとめ。

平成二十八年二月 理事会で提言のまとめを承認。

### 具体的改善策の提言

検討項目として八項目に整理し、現状と課題を確認し、具体的改善策をまとめた。

①講演会 基本的には現行の四分野についての研修会を内容的にはより魅力あるものにして、年四回継続して実施していく。

②日帰り研修、一泊研修 見聞を広める、親睦を深めるなど意義は認められるし必要性もあるのですが、参加者の増加を働きかけつつ、継続して実施していく。

③新規事業 協会の設立趣旨からも教育関係の研究活動は重要であり、学校教育現場や若手研究者の研究活動の支援、助成を新

たな事業として立ち上げていく。今後実施の方向で具体的に検討していく。

④会員 新規会員への入会働きかけの強化を図る。会員の署名入りの入会体験談を会報に載せるなど役員や会員が知人に加わり進める活動を個別に積極的に行う。

⑤事務局体制 当面は「銀閣」を継続して事務局として使用させていただく。

⑥役員体制 教育関係者並びにそれ以外の女性の理事の増加を積極的に働きかける。

⑦広報 会員への周知は現行のメール便のほか、Eメールの活用も検討していく。協会独自のホームページの立ち上げを検討していく。

⑧協会の役割 生涯学習の様々な分野の専門的な知識をもち、活動をされているような実務家を中心に講師発掘を行い多彩な魅力ある講演活動を目指すなどの活動を通して、協会の役割をより一層明確にしていきたい。

### 4. 会員の皆さんへのお願い

会員の皆様には、身近な周りの方に協会の存在を周知し、一人でも多くの方に協会に参加していただくよう働きかけをお願いいたします。今年も多くの会員の皆さまの参加により一層充実した活動を目指してまいりますのでよろしくお願いいたします。

## 第一回講演会 平成二十七年五月十六日(土)

### 「日本のアール・ブリュット

### 「この作品群に何を見て、何を感じるか」

社会福祉法人グロー(GLOW)専門相談調整室長 兼  
法人本部企画事業部総括 田端 一恵氏



本年度最初の講演会は、滋賀県を日本のアール・ブリュットの一つの拠点として福祉と文化芸術をつなぐ取組を進め、国際的にも意義のある役割を担い、内外に発信されている田端一恵氏にお話をしました。田端氏は若手県庁の社会福祉事業団から滋賀県社会福祉事業団(現・グロー)に転職され、ダールス・アートミュージアムNOMAや高機能発達障害者への支援に関する事業等を担当され、この四月からは表記の職についておられます。アール・ブリュット

という言葉は「生(き)の芸術」と日本語に訳され、美術の専門的な教育を受けていない人が、自分自身の内側から湧きあがる衝動のまま表現した芸術を指します。作者に障害のある方が多いことから障害者アートと解釈されることも多いのですが同じ意味ではありません。講演に先立ち会員の一人でもある京都市教育委員会の在田正秀教育長からも、滋賀県の先進的な取組に京都市の教育現場も学んでいく機会にしたい、京都市においてもアール・ブリュットにつながる取組が始まっていること、市総体にとっても障害のある方が生きやすく暮らすしやすい町になっていくことを願っているというようなお話がありました。

田端氏の講演はパワーポイントを使用され、実際の多くの作品の映像を基にお話を進めていかれました。映像のない紙面の報告では、先生のお話を十分に伝えることは不可能で、先生の意にそぐわないかと思いますが、講演の冒頭部分を中心に概要を報告させていただきます。

### はじめに

私は岩手県に生まれて育ち、働いていました。大学も福祉系ではなく、アルバイトに明け暮れる中で人に何か直接接すること、サービス業で面白くないと思っていました。そして私が就職するときは、学生の就職の超氷河期といわれていた就職難の時期で、そのなかに福祉は究極のサービス業というキャッチコピーを見つけ、サービスマンにひかれて受けたのが岩手にいた時の法人です。

受験にあたっては勉強はしたものの、全く知識のないままに福祉の世界に飛び込みました。そして、いわゆるコロニーと呼ばれる大規模入所施設に最初配属されました。岩手の中でも雪深いところで三百人の知的障害の人が暮らす施設で、五十人ずつが六つの居住棟に分かれ、それぞれがトンネルでつながっているところで働き始めました。大きな法人だったので、四回異動を経験したのですが最後に配属された所に、ある男性の入所者がおられました。

以前からその施設には面白いことをやっている人がいると聞いていたのですが、知的にも重度の自閉症者であるその方が配属された所におられて、自分の作品を手放さない方だと聞いていたので作品を見たいなと思い、異動を嬉しく思いました。そこで、その方の作品を見て、その作品を世に出そうという取組をご本人にも理解いただいて、外部のいろんなところで紹

介されることに取り組みました。最後に、スイスのローザンヌにあるアール・ブリュットコレクションというミュージアムの展覧会に出展するところまでつながりました。

そして、そのことがきっかけで今の法人に転職することになりました。いまの法人は「アール・ブリュット」という世界にすぐつながっている言葉で積極的に作品を紹介、発信しています。

今、自分が何をしているかという昭和五年の建築になる町家を改造したアートミュージアムNOMMAを運営しています。もちろん法人全体を見渡すと特別養護老人ホームや障害のある方の通所施設などがあり、いわゆる福祉法人の仕事をするわけですが、一方で障害のある方、最近では高齢の方にも目を向け始めましたが、そういう方たちが生み出す作品の素晴らしさを発信したいと拠点を構えている部署にいました。今年から兼務がかかった専門相談調整室とは、滋賀県発達障害者支援センターと高次機能障害支援センターと地域生活定着支援センターの三センターをとりまとめるという職務です。

### アール・ブリュットとは

今日は日本のアール・ブリュットということで、初めてその言葉に触れる方も多いと思います。講演の前半は、アール・ブリュットと呼ばれる数々の作品の紹介、後

半はそれらをどう発信しているのかという私たちの取組、滋賀県の取組、最後に国としての取組のお話をさせていただきます。

アール・ブリュットを日本語で直訳すると「生(き)の芸術」という言葉があたります。アールはアートのフランス風の発音、ブリュットは生(なま)のとか、加工されていないというような意味があります。

既成の概念とか正規の美術教育を受けていない人たちが、自分たちの力、湧き上がる衝動のままに自分たちのオリジナルの手法で生み出した作品群のことをそう呼びます。日本の中でアール・ブリュットの作り手として紹介されているのは、私たちの活動も相俟つてのことですが、障害のある方、それも知的障害のある方々が多いのですが、ヨーロッパなどでは精神障害の方の作品が多かったり、障害のない方が毎日拾った石で何かを造形したりというような作品もあり、障害があるからアール・ブリュットということではありません。

### 映像による作品の紹介

それでは作品を映像で紹介させていただきます。

(……)そして、ここからが本日の講演の中心、演題にある「この作品群に何を見て、何を感じるか」の本题に入っていきますが、残念ながらこの紙面でお伝えすることはできません。講演ではパワーポイントを用いて、十三人の作者

の作品がひとつずつスクリーンに映し出されその説明がつづきます。一人一人の作者の紹介から、作者の生み出した作品の特徴やポイント、その作品の制作に至るまでの作者の変遷などが、スクリーンいっぱい映し出された作品を見ながら講師の丁寧な説明がつづきます……)

(……)平面や立体、キャンバスや紙、布、土、油絵具や鉛筆、パステルなどの様々な材料を用いた多様でカラフルな造形が、個性的で創造的な芸術作品がつづきます。それらの作品は国際的に高い評価を得ている物も多く、日本のアール・ブリュットが今世界から注目されている状態にあります(……)

### 日本のアール・ブリュット

今、紹介した作品たちは、日本のアール・ブリュットの中でも出展機会の多い、有名な作者さんたちの作品で、いずれも二〇一〇年にパリで開催されたアール・ブリュット・ジャポネ展に出品され注目を集めました。その展覧会は観覧者数も十二万人を数えました。作品の前で観覧者同士が話しているのが、どの作品の前でもみられました。何かをかきたてるものが作品にあったのだろーと思えます。

この展覧会以降、ヨーロッパ各地で日本のアール・ブリュット展の開催を求める声が多くなりオランダ、イギリス、スイスで開催され、現在もオーストリアで開催

されています。日本国内においても、パリでやっていた展覧会を公立の美術館を巡回するという動きになっています。かつては日本の美術館の門戸も堅かったのですが、パリの展覧会以降アール・ブリュット作品への見かたが大きく変わってきています。

### アール・ブリュットの今後

(……)日本各地の、障害のある人の作品の展示場を作っていく取

組の紹介、滋賀県の近江八幡で組んでいるボーダーレス・アートの概念、そのコンセプトによる作品展の企画、取組の紹介とお話が広がり、続くが紙数の関係上残念ですがご紹介出来ません……)

……こうして参加者にとって、耳慣れないアール・ブリュットという言葉、その捉え方、福祉とのつながり等々、熱のこもった講演が続き、最後に大きな拍手がおくられて、講演を終えられた。

## 第二回講演会 平成二十七年七月十一日(土)

## 「超高齢化時代の医療・介護・年金」

京都大学名誉教授

公益財団法人京都健康管理研究会

理事長

泉

孝 英氏

毎年の秋に、会員の皆様に翌年度の事業計画について希望アンケートをとらせていただき、実際の計画に反映させています。二十六年度のアンケートでは「会員も高齢になっていくなか、健康についての話をききたい」という言葉が寄せられました。

そこで第二回の講演会では、京



都大学医学部の名誉教授であり、公益財団法人京都健康管理研究会理事長の泉孝英先生による、超高齢化時代における医療・介護・年金という今の日本の社会における大きな課題をテーマとした講演を企画しました。時宜を得た講演題に、何時にも増して会員の皆様の参加を得て、熱気とユーモアにあふれる講演会になりました。

泉先生の資料を駆使した膨大なお話をすべてお伝えすることは紙数の関係でとても出来ませんので、先生の意を尽くしていない点も多いと思いますが、ご講演の冒頭の部分を紹介させていただきます。

## はじめに

今日ご参加の皆さんは学校の先生、それも私よりも先輩の方も多いということ、少々気が引けるのですが、父親が学校の教師をしていたので学校の先生という人達には親しみを感じています。さて私は、停年になって十六年たちます。その間医者をしてながら色々なことを勉強してきました。一生懸命グランドで走っていると見えなことが、スタンドから見るとよく見えるということがあります。ただ、演題を「超高齢化時代の医療・介護・年金」としましたが、年金問題については、ここにお集まりの方々は悠々自適の方も多いのではないかと思いますので、年金問題については、少々共感の視点がずれるかもしれません。

## 北欧三国(デンマーク)に学ぶ

我が国はいい意味でも悪い意味でも、離れ島です。だから外国の影響をもろに受けるということがありません。学校教育のやり方で、アメリカにも私は行きましたが、アメリカの社会は日本には適さないと思いました。社会保障が進んでいるスウェーデンに留学しましたが、デンマークなどの北欧三国の社会には日本が学ぶところが多々あると思いました。今日はデンマークを中心に話します。

三国には陸続きに国家があることの良さがありません。ある国が子どもの電車賃を無料化する、そうすると、国境を越えた途端に料金

を取るというわけにもいかないのが子供が無料となる。学校の先生が校外学習を思いいたら、電車賃のことを考えずに、すぐに子どもたちを連れだすことができます。あとランドセルというものがありません。小学校は丸テーブルで真中に鉛筆や消しゴムが転がっていて、教科書は部屋の隅に置いてある。生徒は個人個人勝手に勉強していて、先生は生徒を順番に回っていくやり方です。こういう教育が幼稚園から行われている。日本の文科省も生徒の自主的な学習と言っていますが、先生の数が圧倒的に違うのです。

## 北欧の少子化対策

実は私の二番目の娘の主人がデンマーク工科大学の教授として赴任しており、四歳と二歳の孫がいます。その家族を通して私の知った話をする、皆さん驚かれると思うのですが、夏休みは二カ月あるし、有給休暇は消化しないと大学は罰金を政府に払はなければならぬ、罰金は一日で五万円らしいです。そして、大学の教官は七年のうち一年は休む権利があります。少子化対策に関連してですが、娘が二番目の子供を出産する時、朝産したら、午後は籠に赤ちゃんを入れて歩いて帰ってくれという国ですから、それはさすがにというところで娘は日本に帰って出産したので、主人の方はそのことで三カ月の有給休暇がありました。授業はどうなっているのだと

思うのですが……。

夏休みの給料は大学が支払うが、出産のための休暇の給料は大学からもらうけれど、大学は市町村にそのお金を請求するのです。少子化対策の根本に日本はとも真似のできないそういった制度があります。

## 母子家庭のこと

次に母子家庭の問題にふれますと、一番はお金の問題です。四十四年前から子供を養育するための手当は市町村が出すのですが、その分は父親から市町村が取りあげるといって制度、仕組みになっています。これくらい日本の母子家庭は真似すれないと思うんですが。

日本では母子家庭のお母さんが生活保護を受ける時お母さんの六親等ぐらいたまでお金を出してあげたらどうですかと働きかける。ところが、別れた亭主には関係ないとして一切請求にいかないのです。これぐらいはなんとかしらたらどうかと女性の議員に話したりしているのですが、なかなかうまくいきません。口で言うほど社会保障のことは難しく前にすすみません。

## 進む我が国の超高齢化

次は皆さんのお手元にある資料をもとに話を進めます。高齢化率(六十五歳以上が総人口に占める割合)というものが、我が国は、超急ピッチで超高齢社会(高齢化率が二十一%以上)になっ

ています。二〇一三年において二五・一%です。高齢化率の七・十四%を高齢化社会といって高齢社会に備えての社会の整備をしなければならないという意味なのですが、我が国はその準備をする暇もなく超高齢社会に突入しました。主要国首脳会議(G8サミット)参加国の中で一番の高齢化率です。また、平均寿命も男女とも一番です。日本人の平均寿命は太平洋戦争を境に急に伸びてきました。

## 何故日本は世界一の長寿国になったのか

(……いよいよこのあたりから、先生のお話は本題に入ってゆきま

す。お話の大きな項目をあげてみると……)

- 。死亡の減少↓戦死、災害死、病死の減少
- 。戦後の健康環境の向上↓生活環境、労働環境、医療環境
- 。医療における日本とデンマークの比較
- 。過剰診療を抑制出来ない理由
- 。介護の問題
- 。年金の問題

と、先生のお話はつづきます。いずれも、当日の参加者にとっても身近な問題の連続であり、熱心に耳を傾けるなか、講演時間の終了を迎え、盛大な拍手をもって講演会を終りました。

## 第三回講演会

平成二十七年八月二十二日(土)

## 「玄奘三蔵とシルクロード」

龍谷大学文学部教授 文学部長

入澤 崇 先生

第三回講演会は、まず西本願寺の前にある龍谷ミュージアムにおいて、玄奘三蔵千三百五十年忌企

画展「玄奘」を三十分から一時間鑑賞後、ミュージアム内の講義室で、ミュージアムの前館長でもある龍谷大学教授の入澤崇先生から表記のテーマで講演をしていただくという企画をしました。

特別展「玄奘」は孫悟空や猪八戒たちが活躍する「西遊記」の登場人物「三蔵法師」のモデルになった、中国・唐代の僧、玄奘(六〇二年〜六六四年)についての展覧会



です。

シルクロードを越えて聖地天竺（インド）に学び、帰国後はたくさん（の）の経典を中国の人々にわかる言語に翻訳し、その教えは法相宗の開創へとつながりました。

その超人玄奘のイメージの背後に隠された、真実の教えを求めて迷いつづけた玄奘の人生の旅路を見つめようという目的で、玄奘を重要な祖師として厚く崇敬してきた法相宗大本山薬師寺に伝わる宝物を中心に大変多くの展示物が展示紹介されています。

主なものには

1. 木造 玄奘三蔵坐像  
（鎌倉時代 薬師寺蔵）
2. 仏伝浮彫「降魔成道」  
（ガンダーラ2〜3世紀 個人蔵）
3. 五天竺之図  
（明治時代 龍谷大学蔵）
4. 玄奘三蔵絵巻第四  
（国宝 鎌倉時代 藤田美術館蔵）
5. 河鍋暁斎 西遊記西天竺経文取之図  
（江戸時代 国際日文研蔵）

等があります。

参加者は、玄奘の生きた人生を、その旅路を、様々な展示物で追体験しながら鑑賞していきます。「時間が足りない、講演の後もう一度見たい」という、会員の声も多く聞かれるなか、三々五々、講義室に集まりました。講師の入澤先生は、アジア各地域における固有の

文化と仏教との交渉を軸に、信仰・習俗・儀礼・美術等に注目して仏教の具体相を研究されてこられ、専門は仏教文化学です。

過去に幾度もシルクロードの仏教遺跡学術調査に参加されており、著作も多く、講演では自ら撮影された現地の写真をパワーポイントというかたちで、ふんだんに映していただきました。映像を基にお話を進めてゆかれる方法でしたので、先生のご講演の紹介は映像がないと理解しにくく限界がありますが、ご講演の冒頭の部分をご紹介します。

### はじめに

龍谷ミュージアムに初めてこられた方もおられると思いますが、二〇一一年にここ西本願寺の前に仏教総合博物館と銘打って開館しました。仏教関連の展示は他の博物館にもありますが、ただ、仏教の発祥、インドからシルクロード、中国、朝鮮半島を通じて日本へという通覧する博物館というのはなかなかなく、西本願寺の親鸞聖人七五〇回忌にあわせて、龍谷大学がこのミュージアムをオープンしました。

私は準備の段階からこのミュージアムに関わっていて夢でもありました。龍谷大学図書館には、大谷探検隊がもたらした大谷コレクション、歴代ご門主の蔵書などあり、年に二回ほどこういう特別展を開催しています。

### 玄奘三蔵とシルクロード

今日、皆さんにご覧いただいた玄奘三蔵、一般の方にはなじみがないでしょうが、中国からインドへシルクロードを通っていった西遊記のモデルというとなづいていただけるのですが、最近の若い方は西遊記も知らず三蔵法師も知りません。孫悟空と言っても子どもたちには通じない時代になっています。

今日は玄奘展の前身にも若干ふれますが、もう一つは、シルクロードにどのような仏教文化があったかということテーマにしたいと思っています。

私はこれは大変教育的効果があると確信しています。昨日まで高校生の二泊三日の合宿に参加していました。内容は、シルクロード関連の文化財を高校生に見せて、彼らが自分達で課題を設定してパワーポイントでプレゼンテーションをするという試みです。

仏教やシルクロードといっても高校生にはハードルが高いのですが、そこにある壁画や仏像には感ずるものがあるんですね。そこから学びとったものを自分達の教室や地域に持ち帰って、今後どういう実践が高校生としてできるか自分達の頭で考えておりました。

では、シルクロードの仏教文化の一端を皆さんにご紹介させていただきます。（……このあたりから先生の長年の調査研究活動のお話を、パワーポイントの映像を通してわかりやすく解説していただきます。……）

### バーミヤンの大仏

まず最初に、アフガニスタンのバーミヤンを紹介します。玄奘三蔵も行ったところです。ここに高さ五十五メートルの西大仏、三十八メートルの東大仏という二つの大仏が建っていました。小さな穴が見えますが、これは全部お寺です。

建っていましたと過去形で言うのは、非常に残念なことですが、二〇〇一年、タリバンの中の過激派によって爆破されました。

玄奘三蔵は七世紀にこの地に行って直接大仏をみており、その時の記録も残っています。アフガニスタンは今政情不安な状態で仏教といってもピンとこないのですが、かつてアフガニスタンにはどれほど仏教が行き渡っていたかイスラムが支配する以前は仏教国だったんです。今、調査している遺跡にしても未だ二、三割しか見つかっていないと思われれます。

私は二〇〇四年から毎年アフガニスタンに行つて調査をしています。バーミヤンから一五〇km西へ行つたところにも新たに遺跡が確認できたのですが電気もガスもないところであり住みついて調査をしています。

玄奘が行った時には、国王が非常に熱心な仏教徒でこの地域には絢爛たる仏教文化が栄えていたと報告をしています。玄奘が七世紀にこの地に入った時はおそらくこの大仏が出来た時ばかりだったと思われれます。

かつて仏教が栄えていたこの地も、やがてイスラムの人たちの支配する時代になっていったのです。しかし、二〇〇一年に爆破されるまではイスラムの人たちが大切に守ってきた大仏であるということも、忘れてはならないことだと思います。地域の人たちは大きな方をお父さん、小さな方をお母さんと呼んできたのです。つまり、破壊したのも守ってきたのもイスラムの人たちということになるわけです。

余り知られていないことですが、その半年後にニューヨークのツインタワーに飛行機が突っ込むという大変なテロ事件が起こりますが、バーミヤンの大仏爆破は国際的に注目せよとしたその予告篇だったようです。今、アフガニスタン、パキスタンとテロが行われて政情不安な状態が続いていますが、かつては仏教が行き渡って平和な状態であった歴史があったのです。

（……このあたりから、本格的に先生のご専門の仏教思想と文化の諸相、学術調査の成果などのお話が映像を交えてつづいてゆきます。それらを紹介することは紙数の関係で、とてもできません。最後は大きな拍手で講演が終了し、会員の多くは先生のお話を踏まえてもう一度見ようと再び会場の展示鑑賞にでかけました。）

# 第四回講演会 平成二十八年二月十四日(日)

## 「願いを込めた瓦」

豊技塾徳舛瓦店有限会社  
 代表取締役社長 徳舛 秀治氏



年が明けて平成二十八年を迎えた第四回講演会は、協会が研修、講演の柱の一つにしている日本の伝統産業、文化を学び知る取組という事で、「瓦」を取りあげました。瓦は古来より単に雨露をしのぐだけでなく、鬼瓦として願い事を形に表して屋根の上にあげ魔除けや福を呼ぶまじないとして親しまれてきた歴史があります。そういった瓦の歴史、種類、用途などについてのお話、また、瓦職人本来の技能や技術を支える人間性の育成を使命として立ち上げられた「豊技塾」の取組などのお話を

聞かせていただきました。  
 徳舛瓦店の近年の主な施工実績としては、寺社などの重要文化財の瓦屋根の修復を京都府市内のみならず東京、千葉、など日本各地で取り組まれており、その具体名はあげませんが枚挙に暇がありません。

当日は画像を見ながらの方がわかりやすいとパワーポイントを使われ熱のこもったお話を九十分しただき、参加者には屋根瓦と同じ材料で丁寧に手作りされたミニチュアの鬼瓦のマグネットがプレゼントされました。画像なしに、お話の内容をきちんと伝えることはできませんので、お話の冒頭の部分を少しご紹介することで、講演の雰囲気や伝え報告にかえたいと思います。

### はじめに

JRの嵯峨嵐山駅前に店をだしています。私で五代目になります。が、瓦葺きをさせていたただいております。瓦は家、屋根を守るだけでなく、昔から願い事が叶う、福を呼び込むといわれています。そういったあたりのお話、そして、

京都が本場ということで全国から若い方が修業に來られます。自分の店でも中学校卒業の人が三名働いており、そのあたりの話も紹介します。

瓦そのものはスライドの画像をもとに説明するとわかりやすいので、早速映させていただきます。(……)こうして、パワーポイントのスライド映写が始まり、日本各地の文化財としての価値や特徴ある瓦、徳舛氏自身が施工担当された重要文化財建築物の瓦、などの貴重な瓦の画像が次から次へと現れます。(……)

### 葺とは

葺という漢字は夢という字のタのところが瓦になっています。童謡の「こいのぼり」に葺の波という言葉がでてきますが、葺とは瓦屋根が連なった風景を意味します。雲の波と屋根の波の間を鯉のぼりが泳いでいる風景です。

### 瓦屋根を訪ねてみよう

嵐山も観光客が大変多いのですが、屋根を見て歩く方はまれです。しかし、屋根には楽しいことがたくさんあります。古い時代の瓦がたくさん残っています。

瓦が飛鳥時代に初めて日本に入ってきた当初のままの瓦が奈良のお寺には残っています。奈良は天平の時代から、京都は鎌倉室町の室町時代からの瓦が残っています。そして人々の様々な願いのこもった瓦が様々な表情を見せてく

れています。

瓦には厚みがありひとつずつのパーツを組み合わせることで、太陽の光があたった時の陰影で勢いが出たり、繊細さができたり、ゆたかりおらかにみえたりということをや瓦で表現しております。街並みの景観をつくりだします。京都では特に景観に配慮した瓦屋根ということ意識して仕事をしています。

また耐震化を進めていますので、昔は土葺きが多かったのですが、今は土を省いて爪がついている瓦をステンレススクリュー釘または被覆した銅線で引つけてすべての瓦を止め付けします。今、全国組織では屋根を立てて横に向けて何回か回転させても落ちないという施工方法を工夫し取り入れてやっております。

### 瓦の歴史

中国では二八〇〇年ぐらい前に登場します。日本では五五八年に蘇我馬子が飛鳥寺を建てるときに、朝鮮半島から僧侶や大工と一緒に瓦を作る人、屋根に葺く人達がこられたのが始まりです。これは奈良の元興寺の極楽坊の瓦屋根ですが、飛鳥寺がその後元興寺に移ってきたということで赤茶けた瓦が屋根に上がっています。が、千四百数十十年前の瓦で、今も屋根の上に上がっています。

次の写真は法隆寺の大講堂の修復をお手伝いさせていただいた時に撮らせてもらったものです。昔

の瓦はよく焼き締めてあるので強いのです。最高温度は今は千百度、昔は千度ぐらいだと思えますが、最高温度を長時間引っぱって焼き続けると焼き締った硬くて強い瓦が出来るということなんです。これはまだまだ使えるということ。白鳳時代の瓦が使われています。(このあと、古来の瓦の製造方法についての図を介しての説明が続く)

京都は平安時代以降ということになるのですが、平安時代の瓦が一番もろく残っていません。私が思うには、平安京の都となり大量に瓦を作らないといけなくなつた、時間をかけられないということとで余り強く焼かずに出荷したことが原因ではないかと思っています。(……)平安時代、鎌倉時代、室町時代、とつづく瓦の製法時の特徴の話がつづきます。修復においては、打音検査等をきちんとして使えるものは出来るだけ元のものを使っていくというのが基本というお話など(……)

### 各地の瓦

昔は日本全国の各地域で瓦を作っていました。運搬が難しいからです。その土地の粘土、現在でしたら田んぼの下二、三メートル掘れば粘土層がでてきます。その粘土を材料に成形してゆきます。淡路島の瓦で千度、奈良県・愛知県・岐阜県の瓦で千、千五百五十度、島根県の石州瓦、北陸、新潟では千二百から千三百度、寒いところの瓦ほど高温で焼き、焼き締



まったく強い瓦をつくりまします。淡路島の瓦は京都の北部や北陸では凍ててよくないのですが、京都市内でならいぶし銀の色が映えてきれいです。

強い瓦というのは鉄分を多くして高温で焼くので、その分ムラがでたり、ねじれたり、後々に変色したりしますが、私たちはきれいに葺くのか、長く持たすのかを考え、選別していきます。

ここに賀茂ナスの形をした二つの瓦の写真がありますが、瓦は焼成すると大きさが十三パーセント縮みます。

(……)のあと、瓦の種類、形、文様、屋根以外の使われ方とお話が続いた後、菟技塾の話に移ってゆきます……)

### 菟技塾について

自分の父親が始めたのですが、瓦職人になろうと他府県から京都にやってくる若い人たちと寝泊りを一緒にしながら育ててゆくという取組をやっています。

今までに全部で二百数十名の方たちが来られたかなと思います。大学を出て一年で帰られる方もいれば、中卒で来られて七年、八年とつづく方もおられます。

昔の徒弟制度はよくないということになったけれど、良い点もあり、技術を習得するには辛抱しないとかんという時代で、昔の若者は辛抱ができた。今の若い人はその辛抱ができない、携帯電話の影響と思います。少々やんちゃで

あつても昔の若者はすぐに帰るところがなかった、寝食を皆で共にすることで頑張れた。

も、見事に半分の方が三カ月ぐらいいで帰られます。……そういうなかで、どのように若者と接すること以一草師とし

### 春の研修旅行

平成二十七年四月五日(日)～六日(月)

## 春の飛騨・信濃を訪ねる旅

飛騨古川、松本城、旧開智学校、  
三年味噌工場、奥飛騨焼岳温泉を訪ねて

平成二十七年春の宿泊研修旅行は、飛騨古川から信州松本へと巡る旅を実施しました。宿泊は、以前に協会の研修旅行で利用し、源泉かけ流しの湯量豊富な露天風呂をはじめ様々な湯処で湯めぐりが出来ると大変評判の良かった秘湯の宿、奥飛騨ガーデンホテル「焼岳」です。

ぼつぼつと小雨が降る中、午前八時半にバスは京都駅八条口を出発、京都南ICから名神高速道に入ります。一時間走って多賀SAで休憩、東海北陸道に入り、雨と霧が立ちこめ車窓は雪景色に変わっていく中をひるがのSAで二度目の休憩をとります。

雨が本格的に降り続き、除雪した大きな雪の塊がところどころに残っています。この地方の四月初めはこれだけ雪が残っているとい

うことに驚きながら飛騨清見ICで高速を降り高山グリーンホテルへ向かい、美味しい昼食を頂きました。

その後一般道を三十分、飛騨古川に向かいます。飛騨古川は周囲を山に囲まれた盆地で天正年間には城下町としてつくられた町並みが今でも残る飛騨の古都です。出格子の商家や白壁土蔵の造り酒屋など山里の素朴な生活と文化を伝えるしつとりと落ち着いた町です。

飛騨古川まつり会館で豪華勇壮な祭屋台の見学、飛騨の木工芸の技を今に伝える匠文化館での千鳥格子や木組みの体験、鯉が放流されている瀬戸川沿いの白壁土蔵街の散策、とようやく雨のあがった町並みを満喫しました。

古川の町で買い物をした人も多く、再びバスに乗り一般道を奥飛

ての心一を育てていけるのか、徳舂瓦店のエースとでもいう人が育ててきたのか、などと人間性の育成という教育者としての興味の

驛へ、宿泊場所の焼岳温泉へ向かいます。ホテルに着くと早速旅装を解き源泉かけ流しの庭園露天風呂や洞窟風呂、岩盤浴など思い思いに楽しみ、その後美味しい料理の数々が並ぶ夕食、カラオケと和やかな懇親と楽しいひとときが過ぎました。

翌朝は、大きな樹木の根元だけぼつかりと黒い穴があいているが、それ以外は一面の雪景色、という中をバスは松本へ向けて出発です。途中、東京電力糸川渡ダムで休憩し、近くから見ると恐ろしいほど迫力のあるダムの写真をとったりして、十時半には安土桃山時代末期から江戸時代初期に建造され現在に至る国宝一松本城一の駐車場に到着しました。

雨はあがっており、記念の集合写真を撮ったあと、殆どの人が階段が細く急こう配という国宝の天守閣に登りゆつくりと見学しました。そして次は重要文化財の旧開智学校の見学です。明治九年に竣工した明治時代初期の洋風校舎で、松本城に比べ見学者も少なくその分ゆつくりと校舎内外の見学ができました。そして、二日目の昼食場所

の石井三年味噌工場へ向かいます。初めに味噌蔵に向かい三年味噌の作り方、その特色と丁寧な説明をしていただいた後、併設のレストランで飛騨牛朴葉焼き御膳を美味しくいただきました。

こうして、盛りだくさんな二日間の行程をほぼ終了しました。午後一時四十分には長野自動車道の松本ICにバスは入り、中央自動車道では恵那SAで休憩、買い物を楽しみ、名神高速道を経由、午後六時過ぎには全員無事に京都駅八条口に到着しました。



秋の日帰り一日研修

平成二十七年十一月十七日(火)

## 舞鶴市を訪ねて

舞鶴引揚記念館、赤れんが博物館、  
五老スカイタワー

平成二十七年秋の一日研修は、この夏全線が開通した京都縦貫自動車道を通り、京都府北部の舞鶴市を訪ねました。

午前八時三十分、曇り空のもと京都駅アバンティ前観光バス駐車場を出発したバスは五条通を通り、沓掛ICから京都縦貫道に入りました。縦貫道沿いの山や雑木林が紅葉する中、途中の道の駅「丹波味夢の里」で休憩、近在の農家の方の新鮮な農作物などの買い物を楽しみ、十時半過ぎには舞鶴引揚記念館に到着しました。

舞鶴引揚記念館は、第二次世界大戦の終結に伴い、昭和二十年十月から昭和三十三年九月まで、主として旧ソ連邦（現ロシア共和国）、中国などの大陸からの引揚者を迎え入れた舞鶴港を望む高台に昭和六十三年、日本全国からの寄付金を受けて舞鶴市が設立したものです。日本本国への苦難に満ちた引揚と筆舌に尽くしがたい旧ソ連領内の抑留生活の歴史を後世に伝え、平和の尊さを世界に発信し続けています。

このたび建物がリニューアルされ館内展示資料も一層充実し、収

蔵資料のいくつかはユネスコ世界記憶遺産に登録されました。館内の展示資料をそれぞれ熱心に見学したあと、人によつてはすぐ横の展望広場まで歩き、平成六年に復元された引揚桟橋を望まれました。

昼近くなり、ポツポツと小雨の降りだすなか記念館近くのホテル「マレータカタ」で美味しい季節御膳をいただき、談笑のひとつときを持ちました。

午後一時過ぎ、バスは赤れんが博物館に到着し、入り口で参加者全員の記念写真を撮りました。建物は旧舞鶴海軍兵器廠魚形水雷庫として明治三十六年に建設されたもので、れんが建築物としては我が国に現存する最古級のもので、平成二十年には国指定重要文化財になっています。

周辺には、海に面して十二棟の赤れんが倉庫が今も残り、一舞鶴赤れんがパーク」としてオープンしています。博物館は世界四大文明のれんがをはじめ各国の「れんが」の特徴とその歴史を展示紹介し、ホフマン窯の再現コーナーなど世界でここで見ることができない貴重なれんがなどが展示さ



れ、皆さん熱心に見学されました。そして次に向かったのは近畿百景の第一位に選ばれた舞鶴湾の美しいリアス式海岸や舞鶴国際埠頭を展望する五郎岳公園のスカイタワーです。小雨が降っていましたが、舞鶴湾の視界もよく観でかすむことなく、海拔三三五メートルの施設の高さ五（一五）メートルのタワーからの展望を楽しみました。

そして帰路に着く前に、舞鶴港とれとれセンター「海鮮市場」に向かい、日本海で獲れる海の幸を中心とした様々な美味、珍味の買い物を愉しく楽しみました。

帰路は往路と同じに往き、たどり、京都駅アバンティ前へ皆元気に戻ってきました。参加者からは「行程が比較的ゆつくりで、いかに目的の地の見学ができ、買い物も楽しめた」との声がありました。

## 会員の窓

会報が皆様にとってより身近なものということで、皆様の声を反映する場として本号より「会員の窓」コーナーを設けます。当欄が今後、会員の方々の自由な感想や協会への提案、教育や生涯学習についての意見交流の場になればと願っています。第一回目は、元京都市立中学校長の西寺理事に投稿をお願いしました。どうぞ、事務局あてに様々な声を今後お寄せいただければ幸いです。

## 「現代教育研究協会」へのお誘い

元京都市立洛友中学校長  
西寺 正

退職後、誘われるままに入会し約六年が経ちました。会の名称から、当初、少し難しいと思いましたが、一意外と気楽一との知人の言に妙に納得し、今では一自分自身の開発一を喜んでいます。

会報に示されるように、年四回の講演会は多様な視点から講師を迎え開催されます。一日研修旅行や宿泊なども企画され教育の今に結びつく「研修」は私の身の丈に合う、学び多い事業が工夫されています。

会員は七十余名程度ですので、講演会や研修旅行の企画も会員の希望や提案が取り入れられます。私の場合、今、故郷兵庫県加古川市在住なので改修なった一姫路城

と鶴林寺（加古川市）を訪ねるバスの旅が実施されました。旅行社の提案で姫路では醸造会社での昼食を含む研修に加えて、旧知の鶴林寺長老のご説明もあり私自身、播磨地方における日本文化の受容と理解が一段と進む良い機会でした。

本会は「一般社団法人」（梶村健二会長）として一般の方々にも各行事は公開されています。私も余裕の有時は家人や知人を誘い親睦会など「現代教育」をひも解く研修を共に歩んでいます。皆様と同様に現在、私も各種の会や同好会、自治会などに所属しつつも、本会の趣旨に賛同して「誘われて」入会しました。皆様の参会を得て、さらに新たな展望をもって運営されると思いますので、紙面を借りて紹介させていただきます。

さあ、一度、ご縁を結びませんか？

## 編集後記

当協会の事務所及び講演、研修会場が、森清史顧問の御好意により旅館「銀閣」に移転して二年がたちました。一現代教育研究協会の歩みをふりかえる一という五年つづいた会報記事も前号で一旦終了し、今号より「会員の窓」と名付けた会員の方々の自由な意見交流、発表の場としてのコラムを設けました。皆様のご意見、ご要望をお待ちしております。